



みんなで行動しよう
こしがやクールアクション2030 事業者編

※こしがやクールアクション2030とは環境にやさしい「賢い(クール)+行動(アクション)」の取組例です。リストを参考に日ごろの生活様式をチェックしてみましょう。

取組状況

「3:よく取り組んでいる」「2:取り組んでいる」「1:あまり取り組んでいない」

基本目標1 脱炭素社会の構築

- 省エネルギーや温暖化対策に関する目標を定め、毎年進捗管理を行います。
- 設備・機器を購入する際は省エネルギー型ものを選択します。さらに、太陽光発電や太陽熱利用設備を事業所に備えます。

○ 3 ○ 2 ○ 1

○ 3 ○ 2 ○ 1

基本目標2 気候変動影響への適応

- 気候変動影響による自社やサプライチェーン(製品の調達~販売までの一連の流れ)のリスクや機会を把握し整理します。
- 洪水や気象災害などの気候変動影響や長期的な気候の変化を想定したBCP(事業継続計画)を策定します。

○ 3 ○ 2 ○ 1

○ 3 ○ 2 ○ 1

基本目標3 資源循環型の地域形成

- リユース・リサイクルしやすく環境負荷の少ない製品の製造・販売を推進するとともに、自社製品の回収・適正処理に努めます。
- ワンウェイプラスチック製品をなるべく使用しません。

○ 3 ○ 2 ○ 1

○ 3 ○ 2 ○ 1

基本目標4 生物多様性の保全と回復

- 生きものの生育できる空間を保全するため、事業所の周りは生け垣にし、オープンスペースには中高木(在来種など)を植栽し、敷地内の緑化に努めます。
- 身近な緑を守り、育てるための自主的な活動を進めるとともに、地域の活動に参加します。

○ 3 ○ 2 ○ 1

○ 3 ○ 2 ○ 1

基本目標5 安全で安心な生活環境の形成

- 事業活動によるインプットやアウトプットによる環境負荷を低減するためにどのような事業活動の工夫や対策が行えるか検討します。
- 環境項目ごとに自らの事業による状況を把握し、その情報を公表します。

○ 3 ○ 2 ○ 1

○ 3 ○ 2 ○ 1

基本目標6 人づくり、参加・協働

- 環境配慮やSDGsの達成に繋がる商品やサービスの開発・提供を行っています。
- 区域内の市民や行政の取組を支援し、協働で実施します。また、これら地域社会に貢献する活動を公表します。

○ 3 ○ 2 ○ 1

○ 3 ○ 2 ○ 1

越谷市環境管理計画(概要版)(令和3年4月発行・令和5年2月一部改定)

■発行 越谷市 環境経済部環境政策課
〒343-8501 埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2-1
TEL:048-963-9183(直通)
<https://www.city.koshigaya.saitama.jp/index.html>



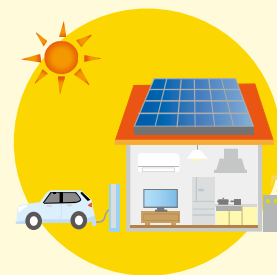
未来のために、いま選ぼう。



古紙配合率60%再生紙を使用しています

越谷市環境管理計画

(2021~2030年度)



みんなで創ろう
越谷の豊かな環境と未来



令和3年4月
越谷市

環境管理計画って何ですか？



環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための基本計画です。
また、「地球温暖化対策実行計画」、「気候変動適応計画」、「生物多様性こしがやアクションプラン」の3つの計画を含んでいます。

望ましい環境像「みんなで創ろう 越谷の豊かな環境と未来」



市に属するすべての人（行政・市民・事業者）が、未来の越谷市民にとって「豊かな環境」を、保全し創造するため、責任を持って考え、行動していることを望ましい環境像としました。

3つの基本理念

環境面から社会・経済課題の同時解決

この計画は、SDGsの理念を反映し、17ゴールのうち環境に関連の高い13ゴールを主な対象分野としています。環境面からのゴールの達成などを通じ、社会や経済面の課題解決も図ります。

行政・市民・事業者の協働

市民と事業者も、行政と一進する主体として位置付け

事業者の協働

体となって環境政策を推します。

地域資源の持続的な活用

市が保有する環境・地域資源を活用しながら、自立・分散型の社会を形成しつつ、広域連携などで資源を補充し支え合うことにより、地域の活力が持続的に発揮されることを目指します。

基本目標 1

脱炭素社会の構築

地球温暖化、省エネルギー、再生可能エネルギー、交通など

市域からの温室効果ガス排出量
令和12年度の目標値

平成25年度比 46%以上削減

基本目標 2

気候変動影響への適応

気候変動影響、ヒートアイランド現象※1、防災など



基本目標 3

資源循環型の地域形成

ごみ減量、廃棄物処理、資源リサイクル、地産地消など

1人1日当たりごみ排出量
令和12年度の目標値

690g/人・日

基本目標 4

生物多様性※3の保全と回復

緑、生態系、生物多様性、公園緑地、環境保全型農業など



基本目標 5

安全で安心な生活環境の形成

大気、水質、騒音・振動、悪臭・土壌等、景観、美化活動など



基本目標 6

人づくり、参加・協働

環境教育、環境活動、環境配慮行動など



取組の方向性

- 1-1 エネルギーの効率的な利用
- 1-2 再生可能エネルギーの導入拡大
- 1-3 再生可能エネルギー電力への転換
- 1-4 二酸化炭素吸収源の拡大
- 1-5 都市基盤と交通ネットワークの形成
- 1-6 ごみの発生抑制の推進
- 1-7 革新的な取組の探求

取組の方向性

- 2-1 気候変動適応※2の理解促進
- 2-2 気候変動適応の推進に係る庁内連携の構築
- 2-3 気候変動に対する適応力の向上

取組の方向性

- 3-1 市民・事業者との協働による資源循環の推進
- 3-2 排出事業者等による主体的なごみ減量・資源化の促進
- 3-3 新たなごみ収集・処理システムの構築
- 3-4 産業廃棄物対策の推進
- 3-5 農産物や食品等の地域内循環の推進

取組の方向性

- 4-1 生きものの減少防止と回復
- 4-2 生息環境の維持と回復
- 4-3 生きものが暮らす環境の保全
- 4-4 グリーンインフラの整備と活用
- 4-5 生物多様性の普及の推進

取組の方向性

- 5-1 生活環境の保全
- 5-2 都市景観の形成と歴史ある景観の保全
- 5-3 災害に柔軟に対応できるまちづくりの推進

取組の方向性

- 6-1 環境・SDGs教育の推進
- 6-2 環境・SDGs活動の推進
- 6-3 環境・SDGsに配慮した消費行動の喚起

■ SDGsとは

SDGs（持続可能な開発目標）とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。



※1 ヒートアイランド現象
都市部において、アスファルト舗装、ビルの輻射熱や排気熱、車の排気熱などの影響により、気温が周りの地域に比べて高くなる現象。
※2 気候変動適応
気候変動に対して自然生態系や社会・経済システムを調整することにより温暖化の悪影響を軽減すること。

※3 生物多様性
自然生態系を構成する動物、植物、微生物など地球上の豊かな生物種の多様性とその遺伝子の多様性、地域毎のさまざまな生態系の多様性をも意味する包括的な概念。

基本目標毎の内容

基本目標1 脱炭素社会の構築

【取組が貢献するSDGsの該当ゴール】



温室効果ガスの大幅削減を実現します。

そのため、行政は他の関係者と協働し、緊急時のエネルギー確保の仕組みや、エネルギー効率を高めた都市基盤の整備を進めます。市民や事業者は温室効果ガスを排出しない生活や事業活動を心がけ行動します。

行政の主な取組

● エネルギーの効率的な利用

地球温暖化の理解促進のため、学習教材の充実や学習会の実施を進めるとともに、「COOL CHOICE」※1の普及により、温暖化対策に資する「賢い選択」の実践を推進します。

長期優良住宅や、省エネルギー住宅の普及、公共施設への省エネルギー設備導入を進め、建築物や機器・設備等の省エネルギー化を促進します。

● 再生可能エネルギーの導入拡大

住宅用太陽光発電設備の補助に加え、事業所への補助も検討します。また、公共施設での導入を拡大します。

災害時におけるエネルギーの確保を図るため、住宅用蓄電池への補助を行うほか、公共施設への蓄電池の設置や、公用車への電動車導入などを進めます。



■保健所太陽光発電パネル

● 再生可能エネルギー電力への転換

電力使用に伴う温室効果ガスを削減するため、再生可能エネルギー割合の高い電力への転換を促進する仕組みをつくります。

基本目標2 気候変動影響への適応

【取組が貢献するSDGsの該当ゴール】



気候変動の影響に対し、命や財産を守ります。

そのため、行政は他の関係者と協働し、気候変動によるリスクや影響を最小限にするための先手を打った対策を進めます。市民や事業者は、気候変動による影響への正しい理解を深め、適切に行動します。

行政の主な取組

● 気候変動適応の理解促進

気候変動の影響に対し、被害を回避・軽減する「適応」は、新しい概念であるため、講演・勉強会の開催、広報・ホームページへの情報の掲載の他、SNSなどの新たなツールにより、周知啓発を行います。

● 気候変動に対する適応力の向上

暑熱対策として、熱中症予防や、緑のカーテンの推進・緑化の促進などを推進します。また、水害対策として、ハザードマップ※2・総合防災ガイドブック等による水害情報の普及啓発、農地や宅地などの保水・遊水機能を活用の検討を進めます。

その他、渇水・自然生態系・農業への対策の推進とともに、気候変動適応策の活用を検討します。

● 気候変動適応の推進に係る庁内連携の構築

庁内において、関連計画への反映や連携体制の構築を進め、気候変動適応の推進を図ります。



■越谷市洪水ハザードマップ

※1 COOL CHOICE

脱炭素社会づくりに貢献する製品への買換え・サービスの利用・ライフスタイルの選択など、地球温暖化対策に資する「賢い選択」をしようという取組のこと。

※2 ハザードマップ

自然災害による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被災想定区域や避難場所・避難経路などの防災関係施設の位置などを表示した地図。

基本目標3 資源循環型の地域形成

【取組が貢献するSDGsの該当ゴール】



資源が適切に循環する社会を構築します。

そのため、行政は他の関係者と協働し、ごみの適正処理の推進や地域内での資源循環を進めます。市民や事業者は、資源を大切に生活や事業活動を心がけ、行動します。

行政の主な取組

● 市民・事業者との協働による資源循環の推進

これまで以上のごみの減量と分別の徹底を図るため、ごみ減量・リサイクル等の情報を発信するとともに、プラスチックごみの発生抑制や、食品ロスの削減に向けた取組を推進します。集団資源回収の活性化や分別ルール徹底など地域一体となった資源化の取組を促進します。

● 排出事業者等による主体的なごみの減量・資源化の促進

事業系ごみの減量・資源化に向け、事業者によるごみ減量・リサイクル活動の促進、過剰包装の自粛要請を行います。また、適正処理に向けた指導の徹底、減量・資源化マニュアル作成など事業者への支援を行います。

● 新たなごみ収集・処理システムの構築

今後の少子高齢化の進行など長期展望に基づく収集・処理システムの検討や、超高齢社会に対応した「ふれあい収集制度」の強化、使用済み紙おむつ対策の検討を進めます。



■フードドライブ※1のための食品回収ボックス

基本目標4 生物多様性の保全と回復

【取組が貢献するSDGsの該当ゴール】



多くの動植物が生息する環境を保全し、生物多様性を回復します。

そのため、行政は他の関係者と連携し、農地・屋敷林などの緑や河川などの動植物の生息・生育地を保全し、生物多様性の回復を進めます。市民や事業者は、地域の自然への関心を高め、重要性を認識します。

行政の主な取組

● 生きものの減少防止と回復

種の多様性を維持するため、生物多様性に配慮した開発・整備の推奨や検討を行います。希少動植物をはじめとした地域の生きものの生息・生育環境の保全や、回復に向けた活動を行います。

● 生息環境の維持と回復

生物多様性を育む農業の振興や、地域の環境保全活動への支援、生きものに配慮した施設管理、ビオトープ※2など生物多様性に配慮した緑の保全・管理・整備を図ります。また、侵略的外来生物対策、水質の改善、薬剤の使用抑制等により在来生物の生息環境の維持・回復に努めます。

● 生きものが暮らす環境の保全

生きものが暮らす場所となる、農地や樹林地・樹木の保全のための取組を進めます。



■コシガヤホシクサ



■越谷ふるさと米※3圃場

※1 フードドライブ

家庭で余っている食品を地域のイベントや学校、職場などに持ち寄り、必要としている福祉団体・施設などに寄付する活動。

※2 ビオトープ

生物空間、生物生息空間とされ、転じて生物が住みやすいように環境を整備した場(沼沢地など)。

※3 越谷ふるさと米

農業の使用を抑えるとともに除草剤を使わず畦の緑を保つことで、様々な生きものが暮らせる豊かな田園環境を目指す自然にやさしいお米。

基本目標5 安全で安心な生活 環境の形成

【取組が貢献するSDGsの該当ゴール】



私たちを取り巻く生活環境を適切に保全します。

そのため、行政は他の関係者と協働し、測定・監視・指導などを行い、安全で安心な生活環境の形成を進めます。市民や事業者は、暮らしや産業活動によって生活環境を汚染しないよう心がけ、行動します。

行政の主な取組

● 生活環境の保全

大気、水質、騒音・振動、化学物質、悪臭・土壌などのさまざまな観点から、環境基準項目の測定・情報提供や、規制基準等に基づく事業所の監視・指導を行うとともに、生活排水対策として合併処理浄化槽への転換などを進めます。



■水質検査

● 都市景観の形成と歴史ある景観の保全

都市と自然が共存した都市景観の形成のため、建築物等の景観配慮への誘導、「こしがや景観資源」の登録や、水辺や歴史に関わる景観の保全・活用を行うとともに、不法投棄防止や美化活動により、きれいなまちづくりを推進します。



■こしがや景観資源

● 災害に柔軟に対応できるまちづくりの推進

災害に対して強くなややかな市民生活を実現するため、エネルギーレジリエンスの強化、災害廃棄物など処理体制の強化、グリーンインフラ*1の活用を図ります。

基本目標6 人づくり、参加・協働

【取組が貢献するSDGsの該当ゴール】



市内の全ての関係者の参加と協働を促し、一丸となって取り組みます。

そのため、行政は他の関係者が行政事業に積極的に参加・協働できる場・仕組み作りを進めます。市民や事業者は環境やSDGs に対する正しい理解を深め、行政事業に積極的に参加・協働します。

行政の主な取組

● 環境・SDGs教育の推進

学校教育において、環境教育資料「しらこぼと」などの学習プログラム・教材の充実を図るとともに、ビオトープを活用した指標生物調査、出前授業など環境教育支援を実施します。また、市民や事業者に向けた情報発信・環境イベントの開催や、行政職員の研修、環境サポーターの育成などの人材育成を行います。

● 環境・SDGs活動の推進

行政による観察会・勉強会などの実施のほか、市民や事業者による取組を支援するための制度や、市民・事業者・行政の連携・パートナーシップを推進する会議体の設立、連携活動を検討します。



■環境大会

● 環境・SDGsに配慮した消費行動の喚起

市民の消費行動の変化によりSDGs達成を加速させるため、環境や社会に配慮された製品やサービスを購入する「エシカル消費*2」の普及啓発を行います。また、プラスチックごみ発生抑制や食品ロス削減、地産地消推進などの活動を推進します。さらに、SDGsに係る金融商品・サービスの取組事例の普及啓発などを進めます。

*1 グリーンインフラ

自然が有する多様な機能や仕組みを活用したインフラストラクチャー（社会基盤施設）や土地利用計画。

*2 エシカル消費

消費者それぞれが各自にとっての社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題に取組む事業者を応援したりしながら消費活動を行うこと。



みんなで行動しよう こしがやクールアクション2030 市民編

※こしがやクールアクション2030とは、環境にやさしい「賢い（クール）+行動（アクション）」の取組例です。リストを参考に日ごろの生活様式をチェックしてみましょう。

取組状況

「3：よく取り組んでいる」「2：取り組んでいる」「1：あまり取り組んでいない」

基本目標1 脱炭素社会の構築

- 国民運動「COOL CHOICE」に賛同し、環境に優しいライフスタイルを実践します。
- 電気やガスの契約を見直し、再生可能エネルギーを多く使った電力プランを選択します。

○ 3 ○ 2 ○ 1

○ 3 ○ 2 ○ 1

基本目標2 気候変動影響への適応

- 気候変動に対して、温室効果ガスの排出量を減らす努力に加えて、既に起こりつつある気候変動影響へ「適応」していくことも重要だと知っています。
- 大雨や台風の際には天気予報を確認しハザードマップで避難経路を確認します。

○ 3 ○ 2 ○ 1

○ 3 ○ 2 ○ 1

基本目標3 資源循環型の地域形成

- ごみ減量・資源化のための分別を実施し、資源物の分別を行いリサイクルを徹底します。
- ワンウェイ（使い捨て）プラスチック製品をなるべく使用しません。

○ 3 ○ 2 ○ 1

○ 3 ○ 2 ○ 1

基本目標4 生物多様性の保全と回復

- 地域本来の生物多様性を向上させるため、在来種を積極的に植栽します。
- 地域の農地を守るため、地元産の農作物を積極的に購入します。

○ 3 ○ 2 ○ 1

○ 3 ○ 2 ○ 1

基本目標5 安全で安心な生活環境の形成

- 市域の大気や水質などの生活環境の状態について、市のホームページや環境白書などを見て知っています。
- 公共交通機関を利用し自転車や徒歩での移動を行います。

○ 3 ○ 2 ○ 1

○ 3 ○ 2 ○ 1

基本目標6 人づくり、参加・協働

- 商品を購入するときやサービスを利用するときはエシカルな視点で選択します。
- 貯金の預け先はSDGsやESG（環境、社会、ガバナンス）に関する取組を実施している金融機関を選びます。
- 自らの環境にやさしい取組を家族や友達に紹介し、取組の輪を広げます。SNSなどで情報発信します。

○ 3 ○ 2 ○ 1

○ 3 ○ 2 ○ 1

○ 3 ○ 2 ○ 1